

2025年6月23日

青森県青少年健全育成審議会にて

『 対人関係の未熟さ 』

— 18歳未満という年齢 —



弘前大学医学部 心理支援科学科
栗 林 理 人（くりばやしみちと）

思春期病理の時代的変遷 —話題になった病態—

(牛島定信による)

- ①1950年代／対人恐怖症 葛藤を抱えられていた
- ②1960年代／登校拒否 葛藤を身体症状やひきこもりで表現
- ③1970年代／家庭内暴力 葛藤は行動化として前面へ
- ④1980年代／校内暴力、いじめ

内的葛藤の原因がはっきりしなくなる

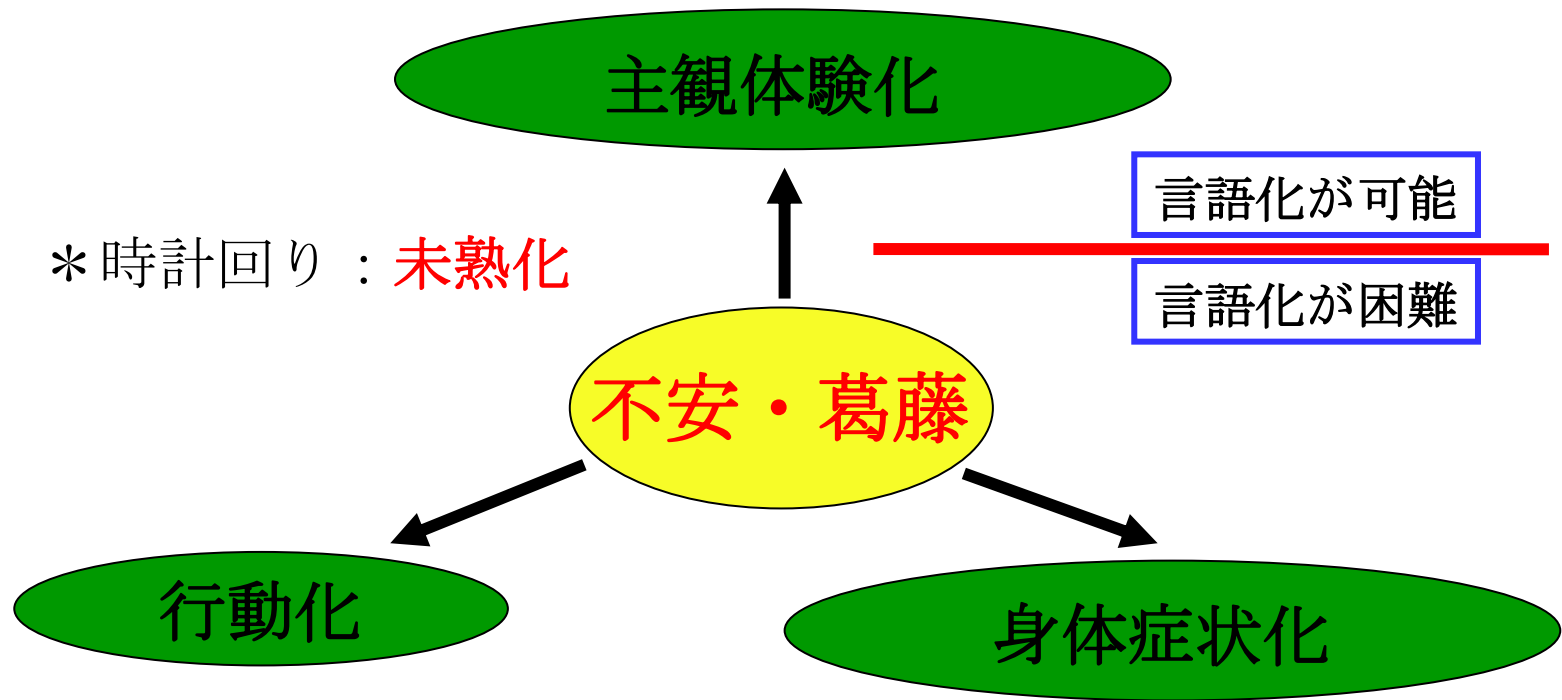
- 
-
- ⑤その後 ／幼児・児童虐待、摂食障害（拒食、過食）、多重人格
外傷性精神障害（PTSD）、アダルト・チルドレン、
パラサイトシングル、・・・「NEET」など

※『未熟化』！ — 行動化の事例が増加

背景には、「家庭の機能の低下」が原因の一つと考えられる

家族構成の変化／大家族（三世代家族・家父長制）→ 核家族化

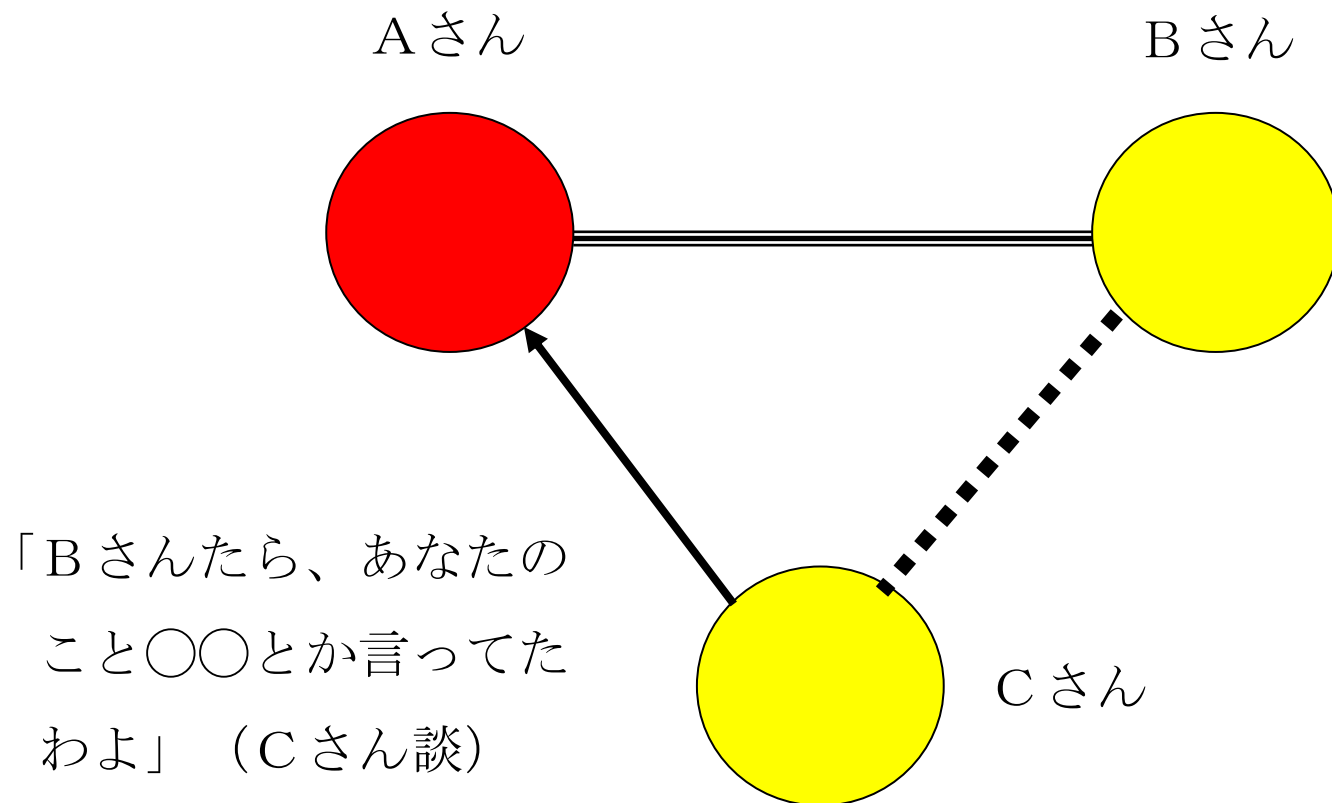
§ 不安・葛藤の表現（笠原嘉による）



※小児期の特徴 とくに身体症状化しやすい！

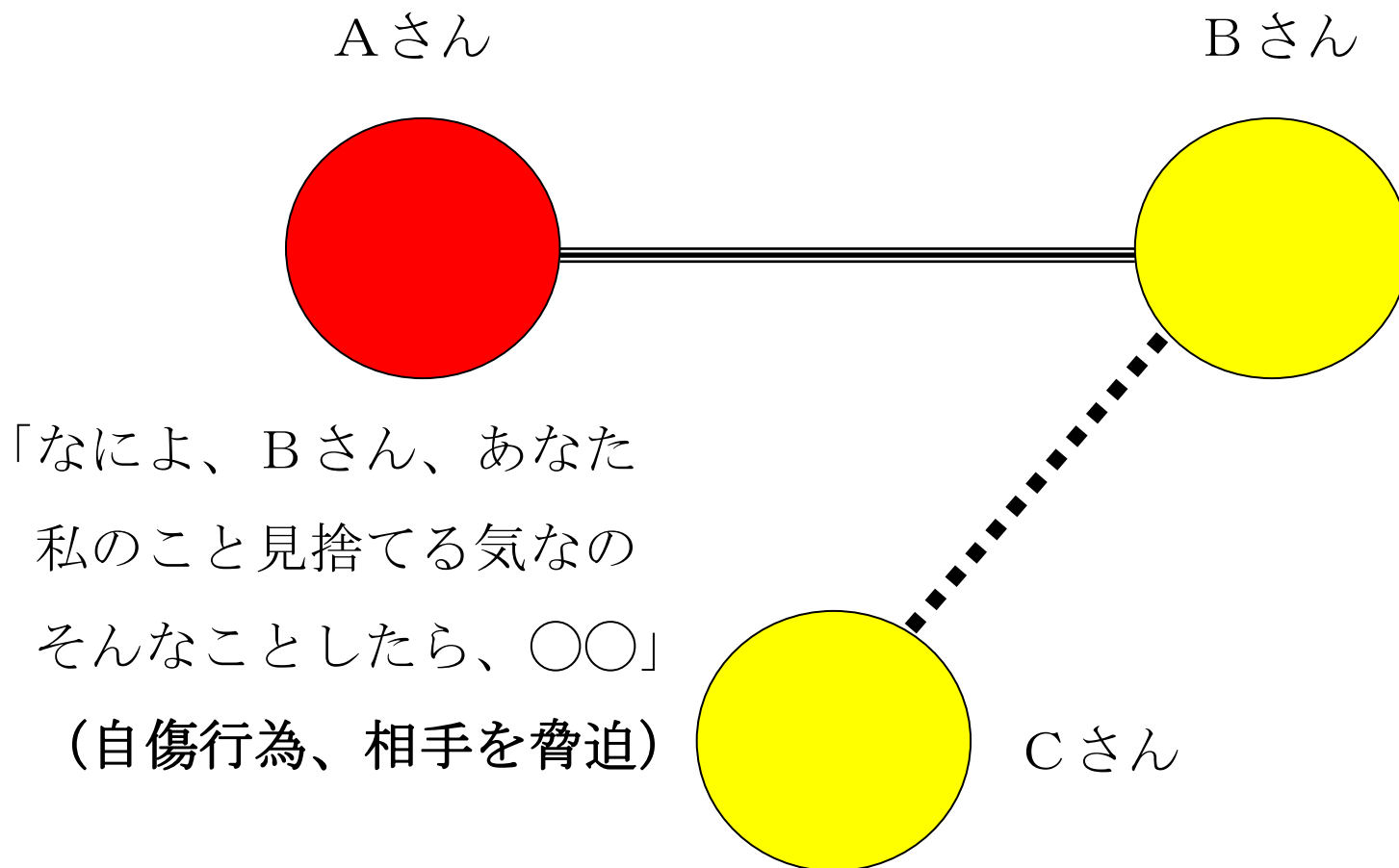
3者の関係（内向的、消極的）

はっきりと「NO」と言えない対人関係パターン



※ 3 人の関係の中に生き残れない！ → 不登校

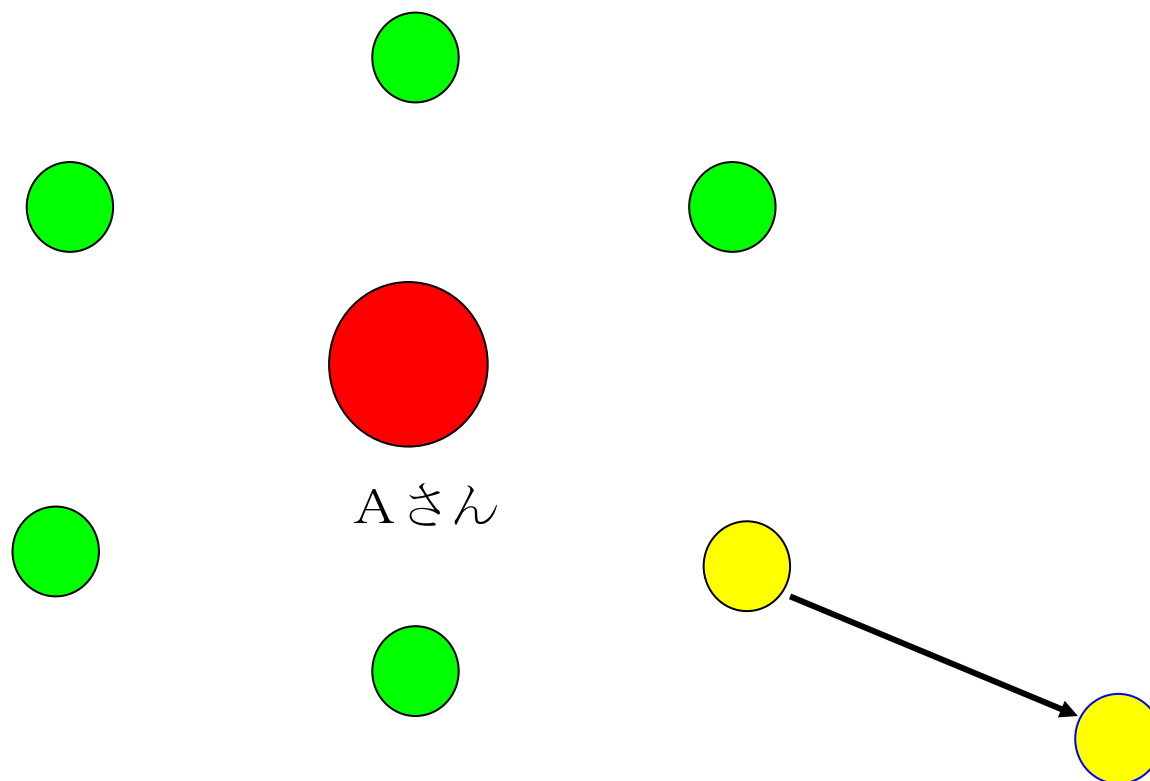
2者関係（母子関係、親子関係）



※ Aさんは Bさんを独占しないと気がすまず、
Cさんに極端なやきもちをやく

2者関係に問題のある人の対人関係 ①

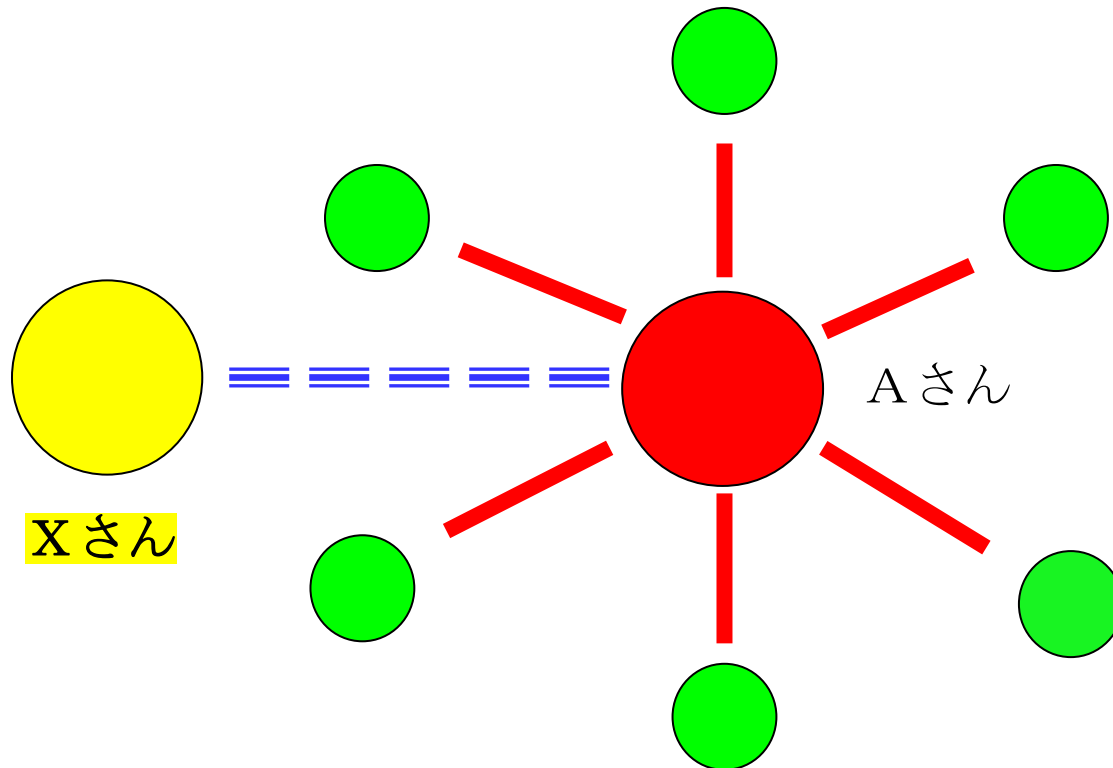
(周囲はAさんにふりまわされている)



* 『Aさんは疲れずに、周囲が疲れる』 (精神的に疲労)

2者関係の問題のある人の対人関係 ②

(Aさんは、うまくいかないと他の人が必要)



※Aさんには、感情などの調整役・Xさんが必ず必要！

§ 「青少年の意識に関する調査」 結果報告書／令和7年3月青森県
(参考資料2－2)

＊調査の対象（青森県内の小学校、中学校、高等学校の生徒）

- ・ 小学校6年生 回答者数 444人
- ・ 中学校2年生 回答者数 752人
- ・ 高等学校2年生 回答者数 6,232人

P93～P97 インターネットで知り合った人との関係について

① 〈インターネットで知り合った人とのメール等のやりとり〉
ある 小学生26.2% 中学生6.0% 高校生48.9%

② 〈インターネットで知り合った人と実際に会う〉
ある 小学生2.6% 中学生6.0% 高校生11.1%

③ 〈インターネットで知り合った人への個人情報送信〉
頼まれて送信あり 小学生1.2% 中学生1.9% 高校生6.4%
頼まれて送信なし 小学生3.3% 中学生11.5% 高校生12.6%

【学校種別集計結果】

個人情報を「頼まれて送信したことがある」は、高校生が 6.4%で最も高く、以下、中学生(1.9%)、小学生(1.2%)となっている。

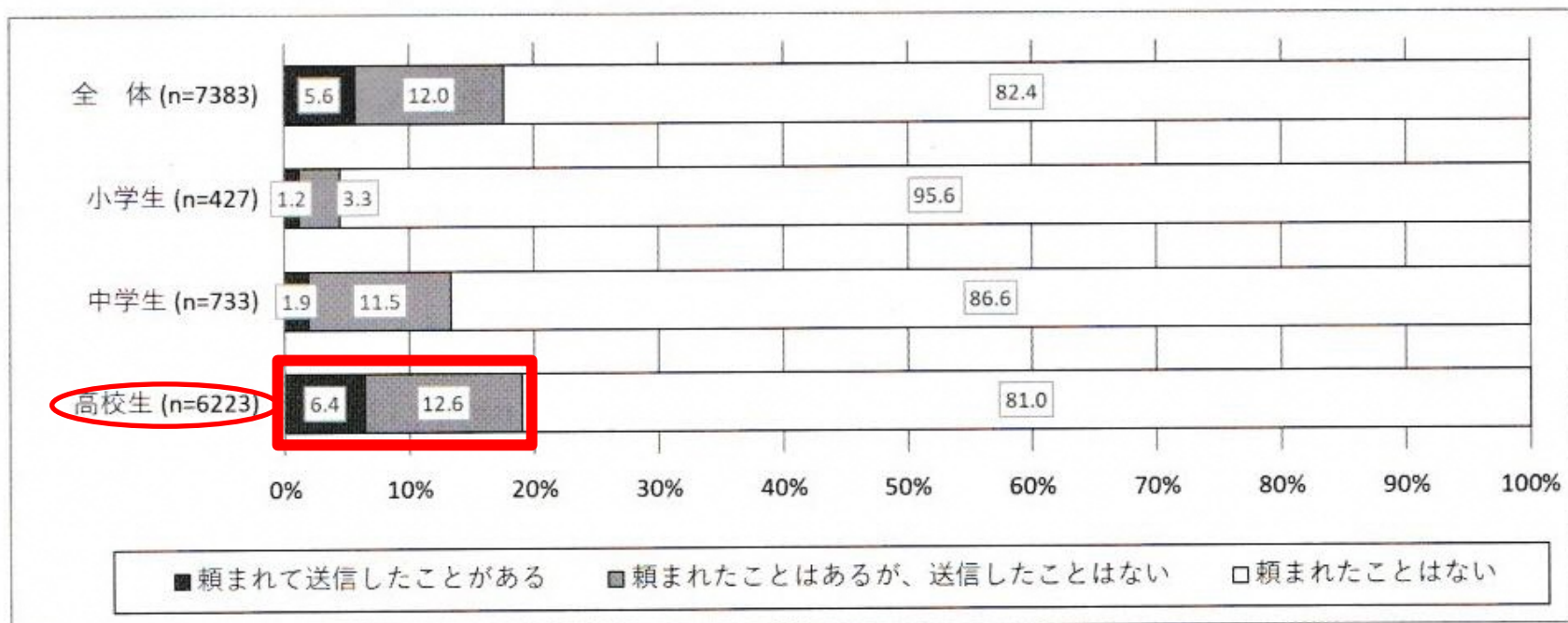


図 40-1 インターネット知り合った人への個人情報送信

*頼まれて 送信したことがある 高校生 6.4% 中学生 1.9%

送信したことはない 高校生12.6% 中学生11.5%

【属性別集計結果】

個人情報「頼まれて送信したことがある」は、高校生女子が 6.8%で最も高く、以下、高校生男子 (6.0%)、中学生男子、小学生女子(2.0%)の順となっている。

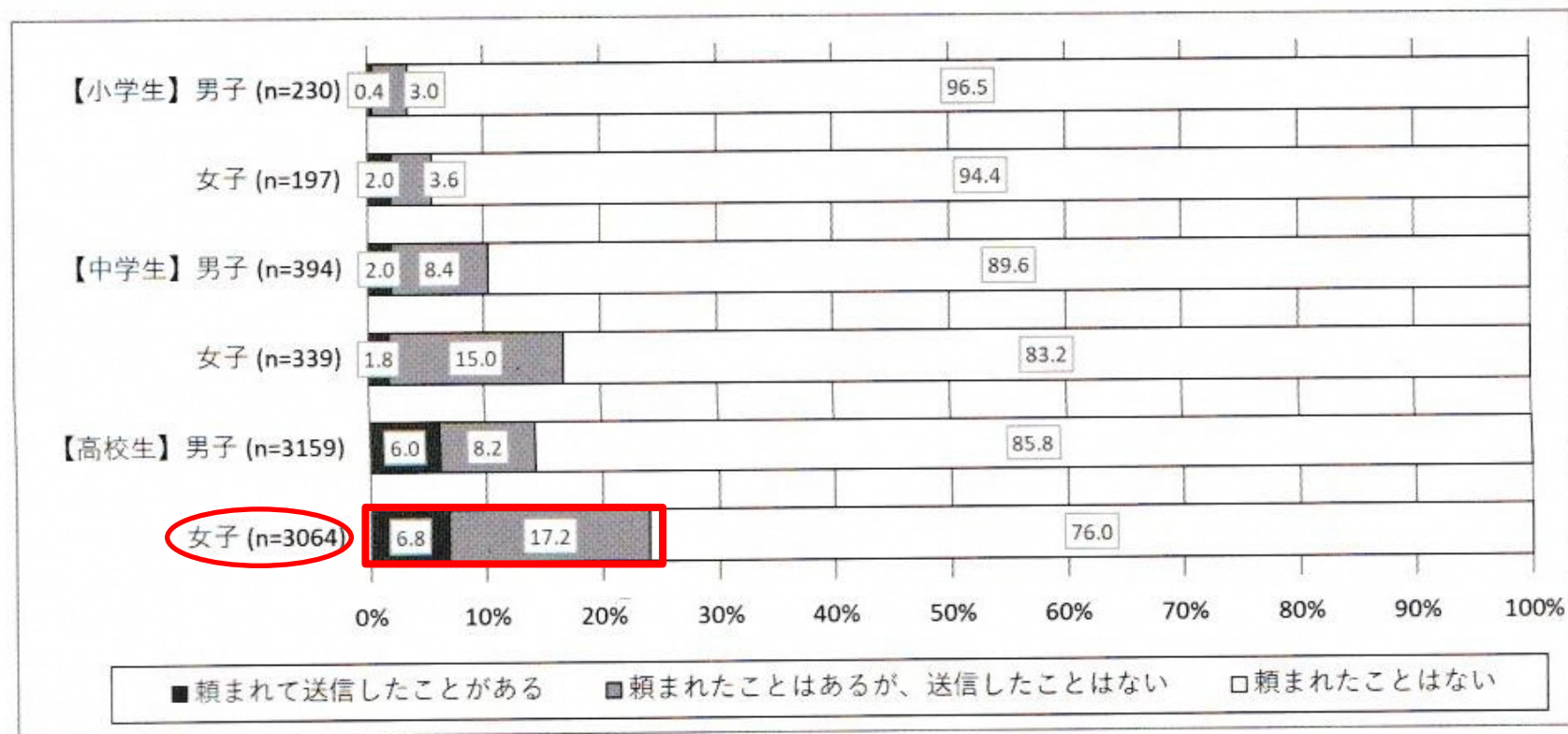


図 40-2 インターネットで知り合った人への個人情報送信

*頼まれて 送信したことがある **高校生女子 6.8%** 中学生女子 1.8%
 送信したことはない **高校生女子17.2%** 中学生女子15.0%

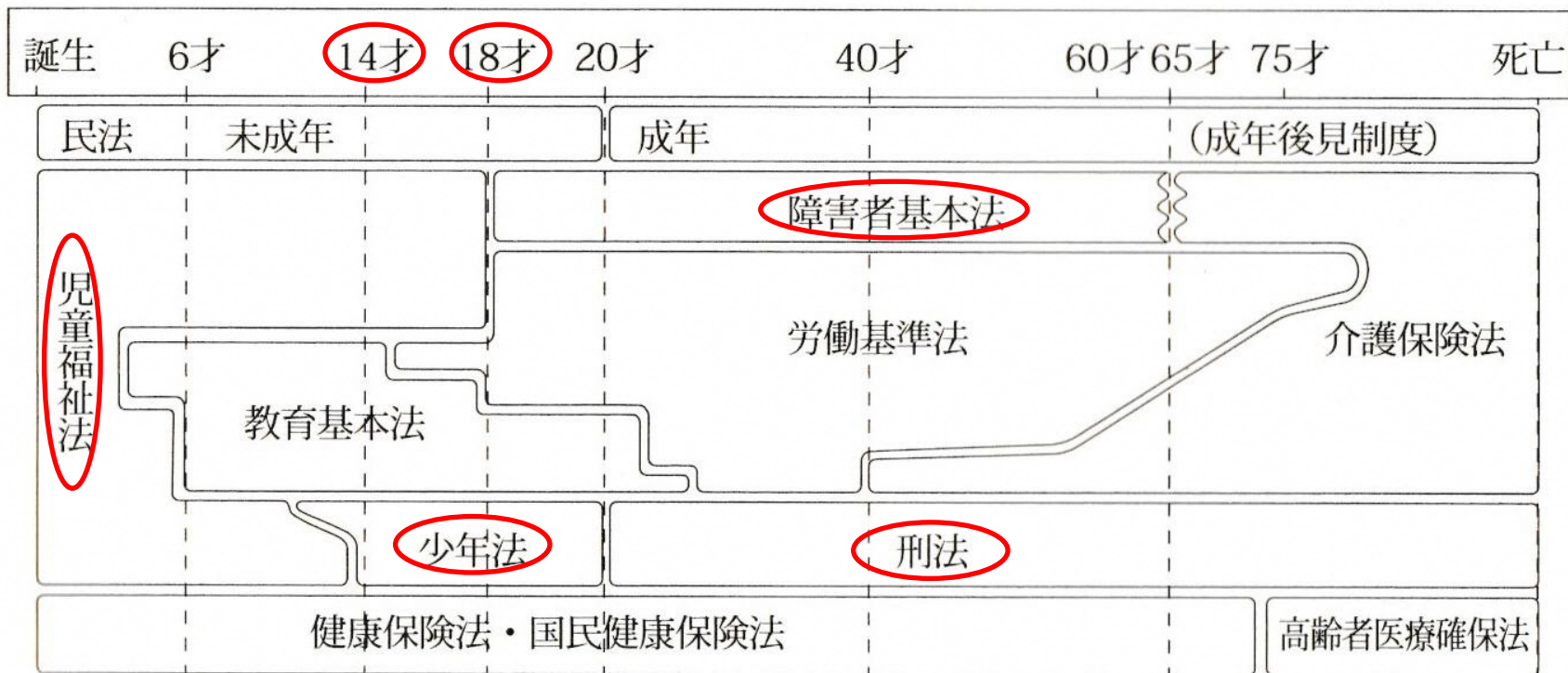


図1 ライフコースと関連する法律

以上より、高校生の年代である18歳までの青少年を守ることが検討するべきである、と考えられる。